

### Ⅲ 今回のプロジェクトにより得られた知見

関東インフラプロジェクト・アーカイブス(No.6)では、全 8 件のプロジェクトをとりまとめています。それぞれのプロジェクトにおいて、コストや環境への配慮事項などが特記され、今後活かすべき知見が明らかにされています。

それぞれのプロジェクトの事例について、コスト・事業期間、環境への配慮、効果の視点で以下に整理し、知見について記載しました。

今後のプロジェクト実施にあたっては、これらの知見をふまえ、一層適切、確実、迅速にプロジェクトを推進していきたいと考えます。

#### 1. コスト・事業期間について

以下のとおり、コストや事業期間が変更となった事例がありました。

- ・ダム建設事業において巡航 RCD 工法を採用しており、堤体コンクリート体積約 100 万 m<sup>3</sup> に対して、実打設期間 19 か月という短期間で施工を実現しました。また、本工法については、試験施工を実施し、課題抽出・確認を行った上で、巡航 RCD 工法の施工方法を確立させ、「改訂版 巡航 RCD 工法施工技術資料」として取りまとめました。
- ・環境整備事業において、盛土材を購入土ではなくダム湖内の現地採取土を利用することで、コスト縮減が図られました。
- ・バイパス道路整備事業において、計画当初は、地盤改良を必要とする地層は確認されませんでした。用地取得後の地質調査の結果、軟弱地盤対策等を実施し、事業費の追加、事業期間が延期となりました。
- ・複合一貫輸送ターミナル整備において、岸壁構造形式を当初想定していたケーソン式から L 型ブロック式にすることにより、全体で約 6%のコスト縮減を実現しました。

#### 【知見】

- ・今回のプロジェクトでは、新技術の導入や構造の見直し、現地の発生材を使用したコスト縮減や工期の短縮が可能となった事例があったので、今後導入可能な事業に関しては参考にする必要があると考えられます。
- ・事業費増や事業期間延伸の要因が、事業実施段階での軟弱地盤対策等によるものがあり、事業化段階においても、地形の判読、文献だけではなく、近年では自治体等における地質調査結果のデータベース化が進んでいることから、これらも活用し設計精度を上げて当初事業費を算定するには参考にする必要があると考えられます。

#### 2. 環境への配慮について

以下のとおり景観・環境に配慮した事例がありました。

- ・ダム建設事業では、希少種の営巣地近接での工事が避けられない状況でしたが、「人工巣」へ誘導することによって事業の影響を回避しつつ繁殖させることに成功しました。
- ・環境整備事業において、多自然魚道を整備したことにより、当初目的である遊泳力の弱い魚やエビ・カニ類等の遡上・降下環境の回復、生物多様性が向上しました。

### 【知見】

- ・ダム建設事業では希少種の保全対策の実施により、着手前と比較しても大きな変化はみられない結果となり、今後の治水事業において希少種に配慮する際の知見として役立つものと考えられます。
- ・環境整備事業で得られた魚道設計等に関する知見は、他の河川の河口部に同様な魚道を設置する際の指標とすることが出来ると考えられます。

## 3. 効果について

以下のとおり、プロジェクトの実施により、地域の活性化・振興が図られた事例、維持管理や利用者の視線に立った施設整備の事例、他事業との連携した事例がありました。

- ・ダム建設事業において、地域と一体となりダムの理解の促進や広報活動を行い、インフラツーリズムとしての今後の役割が期待されています。
- ・環境整備事業(ダム)において、広場等の環境整備を行ったことで維持管理が効率的に行え、ダム貯水池の適正な利用の促進につながり、地域活性化に寄与しました。
- ・高速道路ICへのアクセス強化となるバイパス道路整備等により、輸送の効率性、安定性が向上することから、沿線市町では大規模工業団地整備等による企業誘致や大規模小売店舗の出店等の地域振興の支援の効果がありました。
- ・道路拡幅事業において、駅前広場整備や周辺の土地区画整理事業等の他事業と連携して行うことにより、道路・駅・各施設等の利用者に対し、連続した円滑な移動の経路・空間を、一定の期間内に確保することができました。

### 【知見】

- ・今回のプロジェクトでは、事業実施により、プロジェクト本来の効果以外の他の効果として、地域の活性化・振興が図られた事例が多くありました。
- ・環境整備事業(ダム)では、維持管理の効率化や利用の視線にたった施設整備の事例であり、今後の参考となると考えます。
- ・道路拡幅事業では、周辺に関連事業との連携により、より効果的な整備ができた事例であり、同種事業の良い参考事例になるものと思われまます。

## 編集後記

今回のアーカイブス No6 は、関東地方整備局で取り組んできたダム建設事業、道路バイパス整備、など H28,H29 年度までに完了した多様なプロジェクトを掲載しています。

プロジェクトの実施にあたっては、他事業との連携や新技術活用によるコスト削減の実施等、様々な工夫がなされています。

本誌は、今後、新たなプロジェクトに取り組んでいく方の参考となるよう、このような様々なプロジェクトで得られたレッスン、考察などをとりまとめたものです。作成にあたっては一般の方にもわかりやすいよう表現や体裁に気をつけるとともに、シリーズであることがわかるよう表紙のデザインなどこれまでの要素を残しています。

本誌を発行するまでには、朝倉委員長をはじめ関東地方整備局事業評価監視委員会の皆様方に多大なるご指導を賜り、大変感謝しております。事務局一同、ご協力頂いた皆様に御礼申し上げます。

本誌が、今後のプロジェクトに大いに役立つことを期待するとともに、一般の方にもご覧いただき、関東地方整備局の取り組みについて理解がいつそう深まることを願っております。

(2020.7 関東インフラプロジェクト・アーカイブス(No.6)編集担当事務局)

### 【関東インフラプロジェクト・アーカイブス (No.6) 編集担当部局】

河川部河川計画課

道路部道路計画第一課

港湾空港部港湾計画課

企画部企画課(事務局)

鬼怒川ダム統合管理事務所

利根川ダム統合管理事務所

利根川上流河川事務所

利根川下流河川事務所

宇都宮国道事務所

長野国道事務所

鹿島港湾・空港整備事務所

## 関東インフラプロジェクト・アーカイブス

---

2020年7月 初版第一刷発行（KPA2020-1）

編集・発行：国土交通省 関東地方整備局 企画部企画課  
TEL 048-601-3151（代表）

---

この冊子は再生紙を使用しています。

